

飛行機に乗って、島から島へ出勤中

奄美群島で活躍中の島のお医者さんに、4回にわたってお話を伺います。

## 連載コラム 島のお医者さん

～島民の方々に支えられて～

はじめまして、奄美群島のいくつかで『島のお医者さん』として働いてますDr.ヒラッシーこと平島修と申します。島のお医者さんの、楽しさ、奮闘、そして飛行機を含めた移動手段と医療の関わりなど、医療と生活を身近に感じていただけるメッセージをお届けしようと思います。

今回は勤務している島の一つ、喜界島の医療について少しご紹介します。島民約7200人の喜界島には、島の大半が珊瑚の隆起でできた世界でも珍しい島で、日本一の胡麻の生産地でもあります。



島唯一の入院施設である喜界徳洲会病院には毎日約200名の患者さんが訪れ、小さな島ですが、外来の待合室は毎日たくさんの患者さんで賑わいます。CTやMRIなどの医療機器は常備しているものの、常勤医は数名で行っているため、いつもおだやかな状況とは限りません。病気は予定を立てて起こるわけではありませぬので、時に戦場のような日が訪れます。島で起こる救急車はすべてこの病院に集まるため、同時に救急車が運ばれてきたり、入院患者さんの中に命に関わる患者さんがいらっしやる時は、重病の患者さんを同時に診療しなければならないため、正に災害医療をやっているようです。落ち着いた患者さんの診療はどうしても後回しにならざるをえません。このようなとき島唯一の病院では不思議なことが起きます。「私たちはいいから、〇〇さんを診てあげてください。また明日来ます。」といった声が次々と挙がるのです。驚くことに待ち時間の苦情はほとんど出ません。

これまで都会で医療を行ってきた私にとって、島民の人たちの「結の心」をととても強く感じる瞬間で、少ない人数でも臨機応変に対応させていただけることを感謝しております。都会と比べ島内で完結してできる事が限られ、悔しくも島外への救急搬送を必要とすることがありますが、困ったときはお互い様という島民の方々の考えが日本でも長生きする方が多い島の秘訣なのでしょう。

### 島のお医者さん 平島 修

(徳洲会奄美ブロック総合診療研修センター医師)

11年前に初めて奄美の医療・人の温かさに触れ、奄美群島での医療に取り組む決意をする。奄美大島・加計呂麻島・喜界島で診療をしつつ、全国の医学生・医師に「手あて」の重要性を伝える活動を行っている。



～表紙クイズの答え～

正解は… JACで2017年に新しく迎える飛行機、「ATR42-600」です。

ハイビスカスに想いを乗せて  
新型機 **ATR42-600**  
2017年春就航予定

特別塗装のご紹介



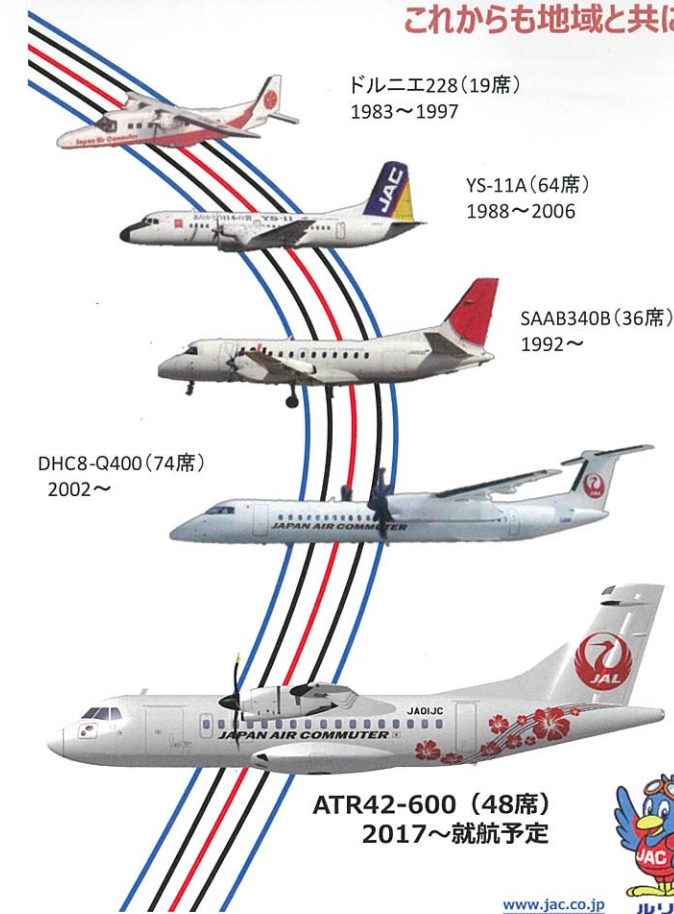
### 「ハイビスカス」

離島の多くの自治体で“市町村の花”となっているハイビスカスをJAC就航の離島・地域の象徴として、左側は鹿児島と鹿児島県内の空港のある7つの離島と隠岐、右側はATR機がつなぐまた今後つないでいくその他の地域を表しています。

### 「5本のライン」

“水引”のように、地域と地域、人と人を結び、さらに子供たちの夢、人々の想い、過去から現在、未来をも永遠につないでいきたいという想いが込められています。ラインの色は奄美大島にのみ生息するルリカケスの色(赤・黒・瑠璃色)を基調としています。

33年間、時代も地域も人の心もつないできました。  
これからも地域と共に。



ドルニエ228(19席)  
1983～1997

YS-11A(64席)  
1988～2006

SAAB340B(36席)  
1992～

DHC8-Q400(74席)  
2002～

ATR42-600(48席)  
2017～就航予定

www.jac.co.jp



どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

Vol.1

# JAC NOW

～ゆいタイム～



## クイズ: この飛行機は、なあに?

(こたえは裏面へ。)

お手にとってください、ありがとうございます。

JACの今をお届けしようと、このたび、社員手作りの機内情報誌を発行することになりました。お客さまとつながる ゆい“結い”の時間を、そして、地域航空として各地域を“結ぶ”情報をお届けしたいという想いを集めました。ふたつとない今日のこの空の上でのお客さまとの出会い。ゆい“唯”タイムを、『JACNOW～ゆいタイム～』を通じて、優しく心つながる時間として、お過ごしいただけましたら幸いです。

ご意見、ご感想、お気づきの点などございましたら、どうぞ、お気軽に、客室乗務員までお寄せください。



日本エアコミューター株式会社

みなさまへ

本日も日本エアコミューター(JAC)便にご搭乗いただき、心よりお礼申し上げます。

JAC社は、奄美大島を拠点に、1983年に19人乗りのドルニエという機材で奄美群島間を結ぶ4路線の運航からスタートしました。その後、本社を奄美空港から鹿児島空港へ移転し、西日本各地へとネットワークを広げてまいりました。創業以来 人身無事故を継続し、現在はボンバルディアDHC8-Q400と、SAAB 340Bの2機種にて、JALグループの一員として23路線、年間約130万人のお客さまにご利用いただいております。そして来年2017年春、いよいよ待望の最新鋭機、ATR42-600を導入し、更なるサービス向上に努めていく所存です。

私たちは、「鹿児島を中心とした地域航空、生活・離島路線の維持・充実」をミッションとし、地域の翼としてそこに暮らす人々の生活を守り、また一方で、多くのお客さまにこの地域を訪ねていただき、地域間交流促進による地方創生に貢献したいと考えております。

安全運航を堅持し、我々の行動のすべてに、地域へそしてお客さまへの想いを込め、常に行動し続けてまいります。

これからもJAC社をよろしく  
お願いいたします。



これからはJAC社をよろしく  
お願いいたします。

日本エアコミューター株式会社 代表取締役社長 加藤 洋樹

## 空の上の航空教室 作成チームのご紹介

福岡整備より、左から、整備士 金丸、松尾、原



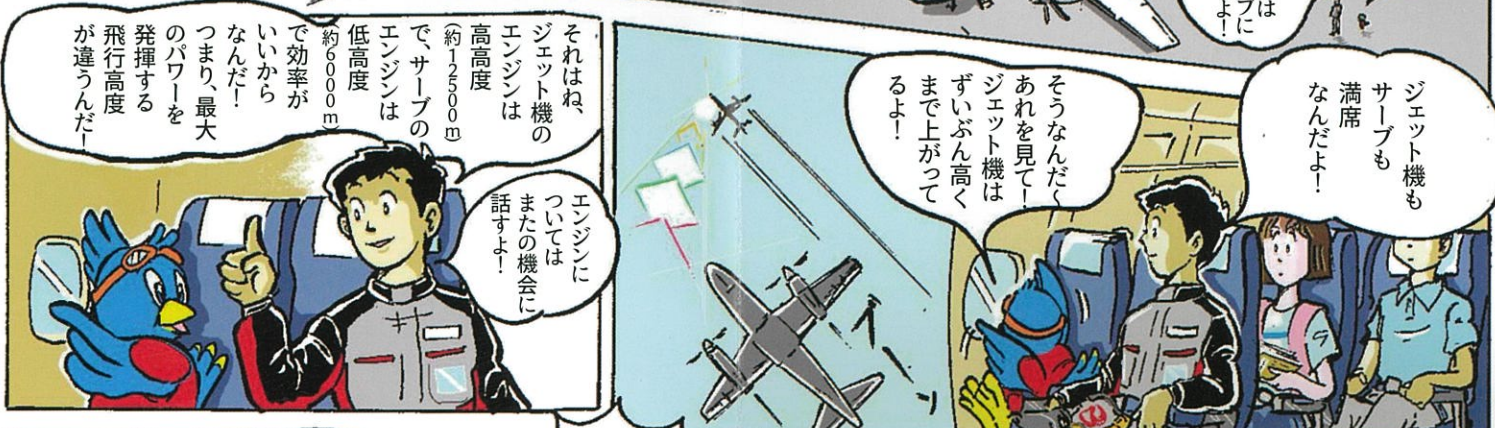
ご搭乗ありがとうございます。

この手作り漫画「空の上の航空教室」は、私たちJACの現場整備士メンバーが作成しました。日頃は直接お客さまへサービスする事のできない整備士ですが、自分たちにも何かできる事はないかと考え、この漫画作成にいたしました。

「空の上の航空教室」をお読みになったお客さまに少しでもJACの飛行機を好きになっていただけたら嬉しく思います。



鹿児島整備より、左から、整備士 吉村、尾崎、草野、大場



# JAC 空の上の航空教室

NO.1 離島の翼JACの巻

ご搭乗ありがとうございます。僕は日本エアコミューター(通称JAC)公認キャラクターのルリーです。どうぞよろしくね!!

鹿児島県の鹿島に指定されている鳥。世界で唯一、奄美大島、加計呂麻島、諸島にだけ分布しているんだよ!

ルリカケス

